

経済動向調査

2020年10月～12月

景気・消費・需要等動向に
関する情報の収集・整理

2021年4月

佐久穂町商工会

I 景気情報等の収集整理

・中小企業景況調査報告書

(全国:2020年10月~12月)

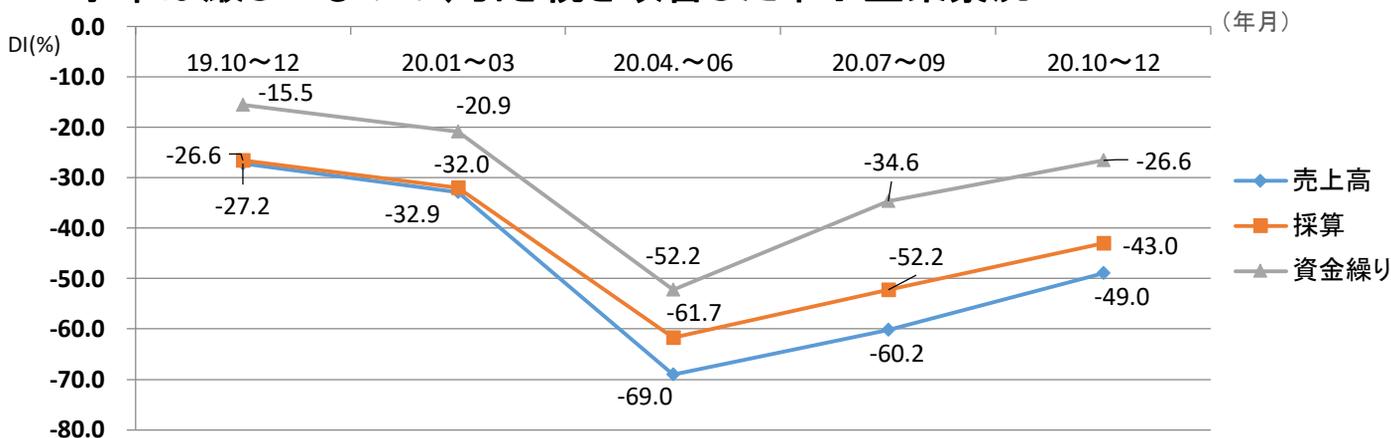
・小規模企業景気動向調査

(近隣都道府県経営指導員のコメント:2020年10月~12月)

※DI(景気動向指数)は、各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す

〈産業全体〉

水準は厳しいものの、引き続き改善した中小企業景況



【経営指導員のコメント】

・コロナ禍の慣れもあるのか、一般消費者の動きは徐々に戻りつつあるが、コロナ対策を講じながらであるため、対前年までは戻っていない。また、引き続き、業界によっては人出不足が顕著であり、募集をしてもあつまらない現状が常態化しており、業務が滞っている。
(富山市南商工会 婦中支部センター)

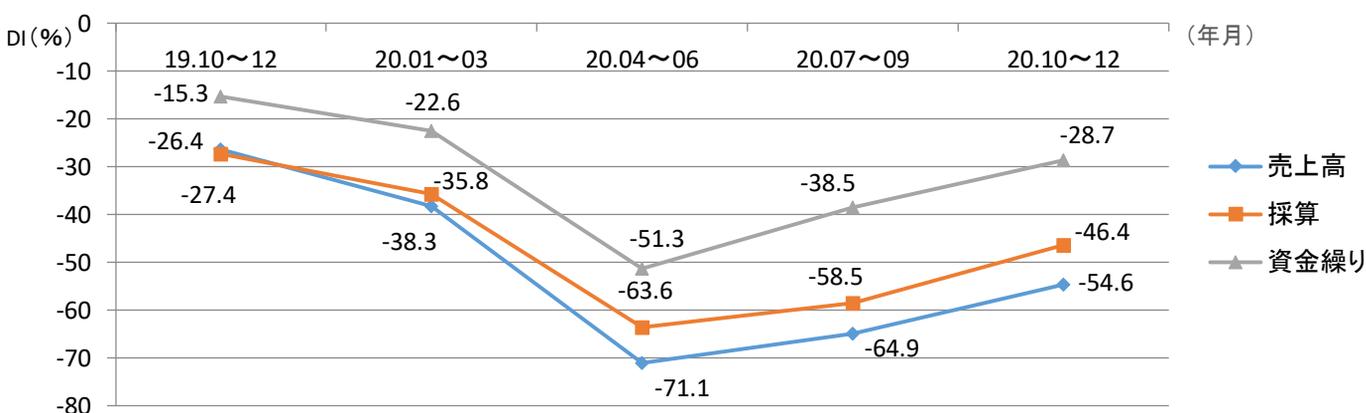
・先日も浜松でクラスター感染が出ており、どの業種も年末に向け繁忙期に入るが、経済と感染対策のバランスが難しい。
(御前崎市商工会)

・GOTOが動いていたころは売上・利益とも緊急事態宣言時の70%前後まで売上を戻せる事業所も多かったが、12月以降影響がもろに出ている。借り入れについても年末前後までを予定して借りている事業所が多い為、今後緊急事態宣言休業要請が出た際には、借り入れがこれ以上出来る事業所も少なく、倒産・廃業に追い込まれる事業所が多々出る可能性がある。
(御代田町商工会)

・コロナ禍が約1年になり、各事業者も必死で歯をくいしばりながら続けてきたが、これ以上この状況が続くようだと廃業・倒産の事業者がバタバタ出てくるのではないかと危惧している。
(御前崎市商工会)

〈製造業〉

前期から幅広い業種で改善した製造業の景況



【経営指導員のコメント】

・食品関連の事業者は、GoToトラベルキャンペーンや個人観光客の近隣観光の復調により前年比8割以上の売上確保で復調傾向。今後の一層の回復に向け期待感が高い。繊維工業関連の製造業は、需要の低迷に加えてコロナウイルスの影響を受け、厳しい経営が続いている。下請け企業も打撃を受けており、依然休業等を実施している状況。機械金属関連の製造業は、国内向けは90%近く回復しているが、海外向けの動きは今一つ。雇用調整助成金は12月末まで利用予定。
(中部商工会産業支援センター)

・金属製品製造・加工業は企業間格差が大きい。発注元が加工方法変更や下請けに出さず自社でまかなう体制を強化しているなど、受注の仕組みが変わりつつあり、影響を受けている企業は受注量が大幅に減少している。一方、自動車関連部品はやや盛り返してきているとのこと。
(佐久市望月商工会)

・食品関連の製造業は、当地の観光土産の製造業者はGoToトラベルキャンペーンや個人観光客の近隣観光の復調により前年並みに復調。売上が伸びる年末に向け、期待感が高い反面、新型コロナウイルス罹患増加に対する警戒感が高まっている。繊維工業関連の製造業は、新型コロナウイルスの影響を受けていたが回復基調が見られる。第3波の影響が懸念される。機械金属関連の製造業は、新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着きつつある。海外取引はまだ回復していないが、国内取引は前年並みとなり、資金繰りも問題なく、利益も確保できている。
(中部商工会産業支援センター)

(中部商工会産業支援センター)

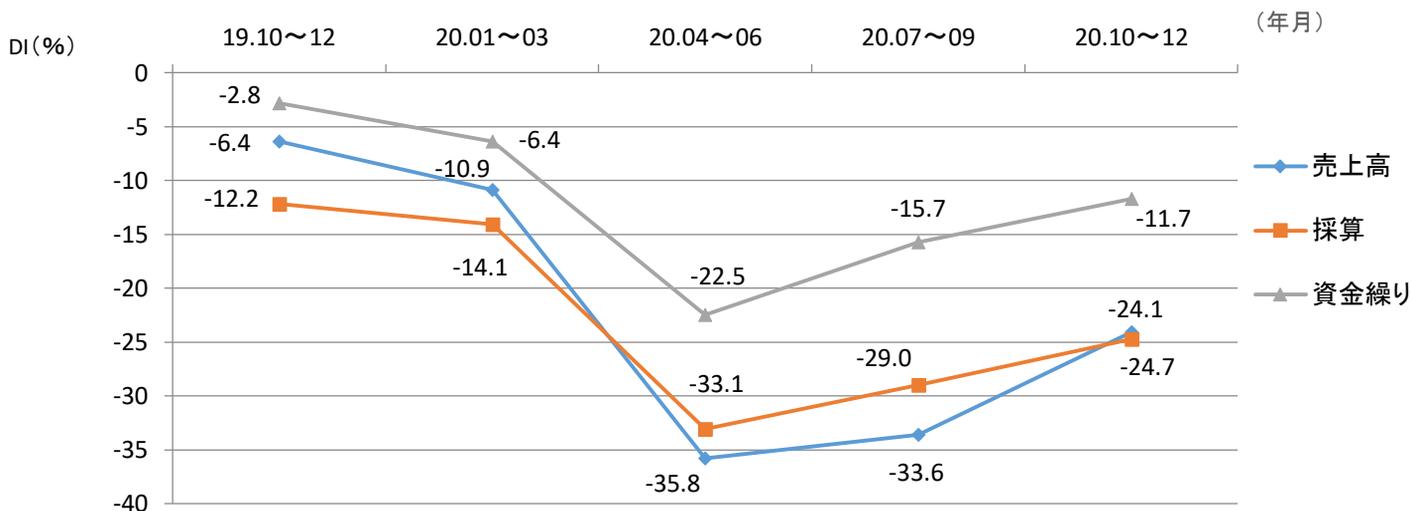
・金属製品製造、加工業は企業間格差が大きい。発注元が加工方法変更や下請けに出さず自社でまかなう体制を強化しているなど、受注の仕組みが変わりつつあり、影響を受けている企業は受注量が大幅に減少している。一方、自動車関連部品はやや盛り返してきているとのこと。
(佐久市望月商工会)

・食品関連の製造業は、新型コロナウイルス「第3波」、GoToトラベル事業の適用一時停止の影響が大きく、年末に向け観光客は減少。しばらく復調傾向にあった当地の観光土産の製造業者は、反転、売上減少に転じている。繊維工業関連の製造業は、大手ストックメーカーの下請け企業は、生産調整により、休業を実施している。アパレル関連は、小口注文であるが引き合いは増えている。機械金属関連の製造業は、新型コロナウイルス感染症の影響が徐々に回復し、前年並みに推移している。
(中部商工会産業支援センター)

(中部商工会産業支援センター)

〈建設業〉

他と比べると上昇幅は緩やかだが、改善が続く建設業



【経営指導員のコメント】

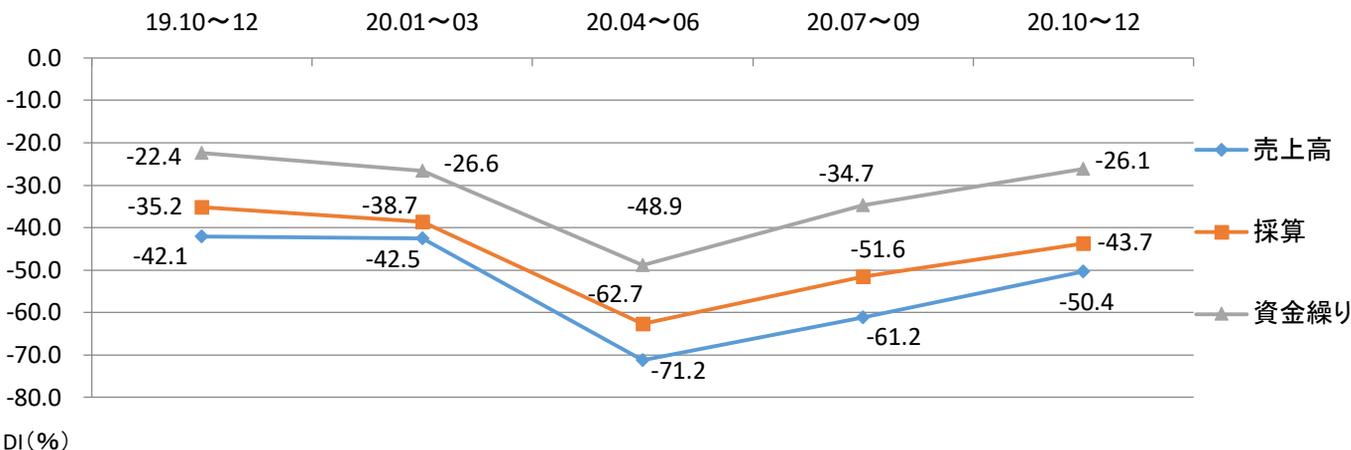
・引き続き台風復興関係の工事が続いており好調。建築関係でも企業、個人からも受注が確保されている。職人不足、現場監督不足は引き続きの課題。
(佐久市望月商工会)

・土木、建設共にコロナ以前まで回復傾向にある事業者が増えてきた。しかし、特に一般個人住宅の工事の際に、他県の業者が来ることに難色を示す顧客もあり、対応の検討が必要と感じる。
(養老町商工会)

〈小売業〉

構造的要因は続くものの引き続き改善した小売業

(年月)

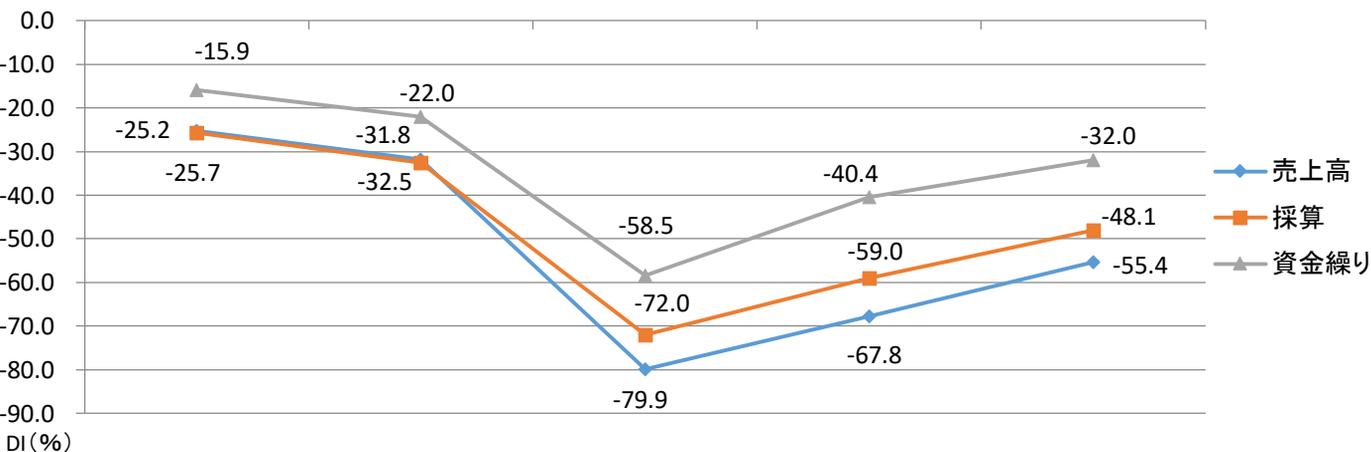


【経営指導員のコメント】

・衣料品関連の小売りは、高価格品への購入は少なく、外での活動に必要なものの売れ行きが落ちており、売れ残りが出ている。食料品関連の小売業は、GoToトラベルにより、地域の土産店も回復基調の動き。スーパーマーケット等は依然好調を維持。耐久消費財関連の小売業は、消費者の購買意欲は良化傾向との声が多かった。
(中部商工会産業支援センター)

〈サービス業〉水準は低いものの、宿泊業、飲食店でも景況が改善したサービス業

(年月)



【経営指導員のコメント】

・旅館関連のサービス業は引き続きGOTOトラベルの影響で、ほぼ満室が続く。第3波により、キャンセルが出ているが、すぐに埋まっている。洗濯関連のサービス業は、GoToトラベルとカニのシーズンが重なり、旅館の稼働が好調になった事から、リネンサプライは昨年同様まで回復も、一般クリーニングの動きは低調。理美容関連のサービス業は、売上は多少の減少はあるが、徐々に前年並みに回復している。(中部商工会産業支援センター)

・宿泊業は、GoToトラベルのおかげで売上が前年を上回る施設がいくつも見られる一方、恩恵を全く受けられず開店休業状態にある宿も散見され、好不調の差が両極端になっている。洗濯業は主な顧客である宿泊施設について

Ⅱ 行政の統計情報・民間の景況情報の収集整理

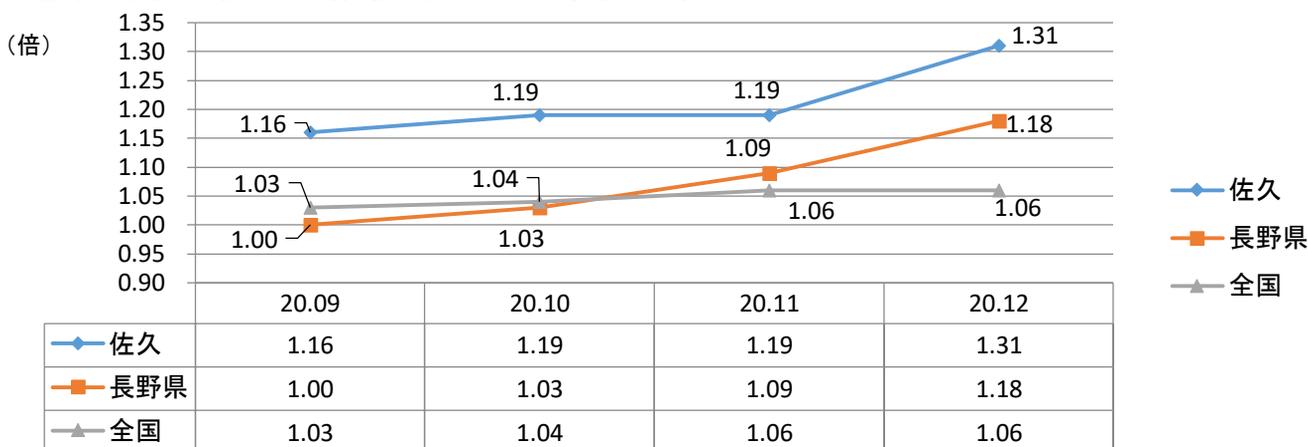
1. 人口動態

	人口			世帯数		
	2020.9.30 現在	2020.12.31 現在	増減	2020.9.30 現在	2020.12.31 現在	増減
佐久穂町	10,068	10,065	△3	3,910	3,909	△1
小海町	4,318	4,283	△35	1,813	1,797	△16
佐久市臼田	13,028	12,947	△81	5,662	5,649	△13
佐久市全体	98,391	98,341	△50	40,500	40,527	27

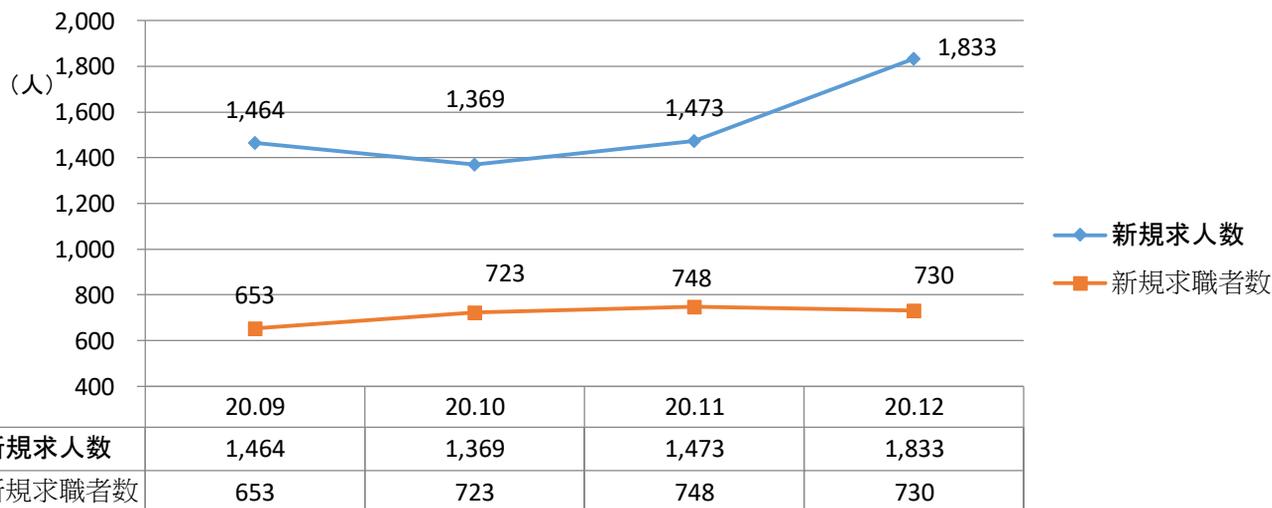
2. 雇用情勢

※(佐久)はハローワーク佐久と小諸出張所の合算値

①有効求人倍率の推移(佐久・長野県・全国)



②新規求人数と新規求職者数の推移(佐久)



(資料)ハローワーク佐久「業務月報」

3. 生産動向

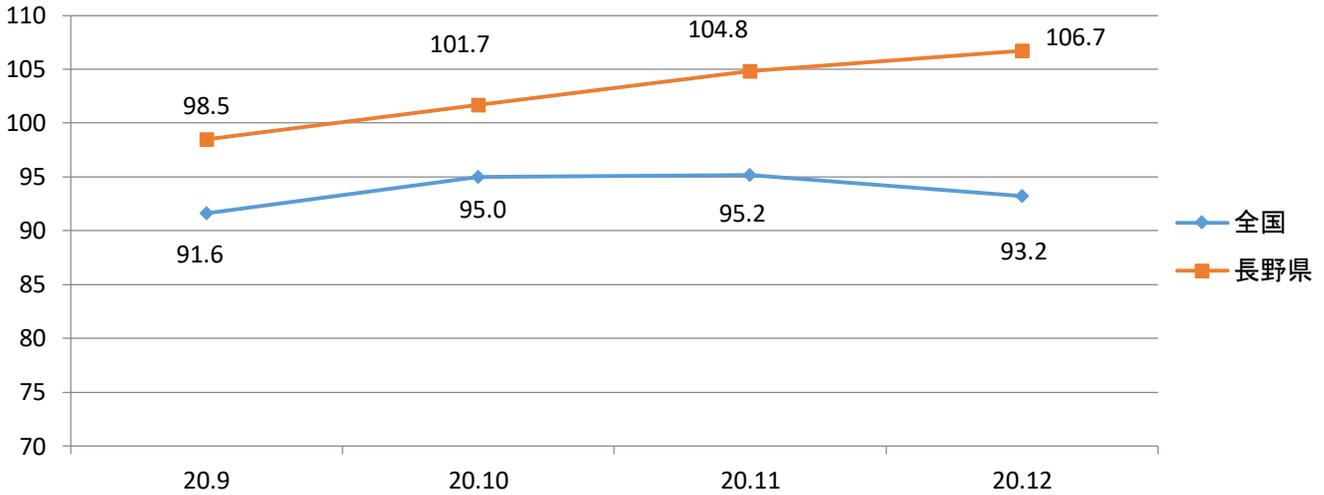
長野県鉱工業指数は、生産は3か月連続の上昇

鉱工業生産指数

※鉱工業生産活動の全体的な水準の推移を示します。

(季節調整済み指数)

(2015年=100)



(資料)長野県「長野県鉱工業指数」・経済産業省「鉱工業指数」

4. 個人消費

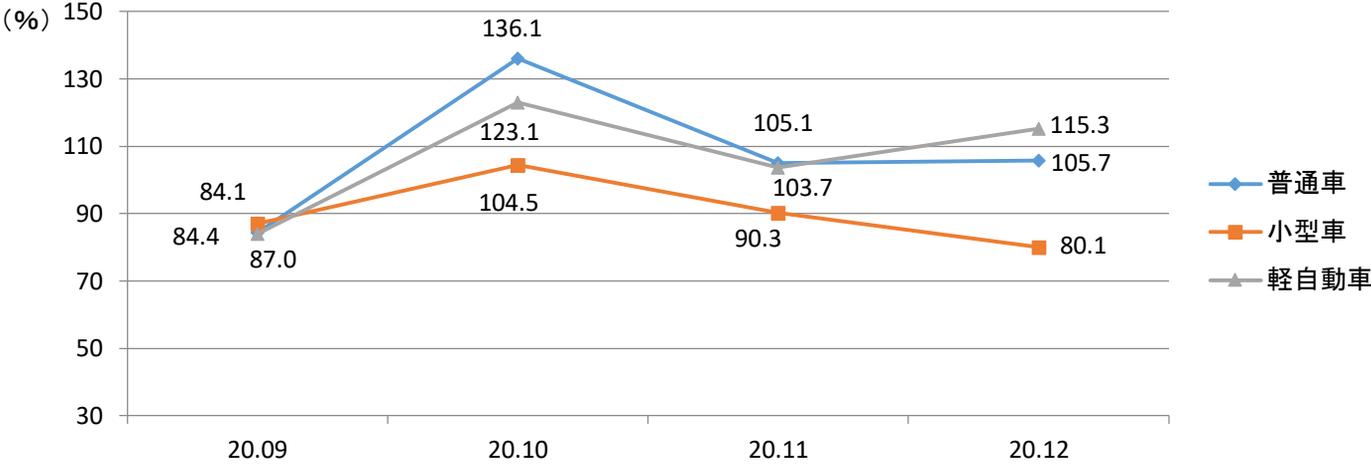
大型店全体では3ヶ月連続で昨年を上回る

大型小売店売上高(売上前年比)



(資料)長野経済研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」

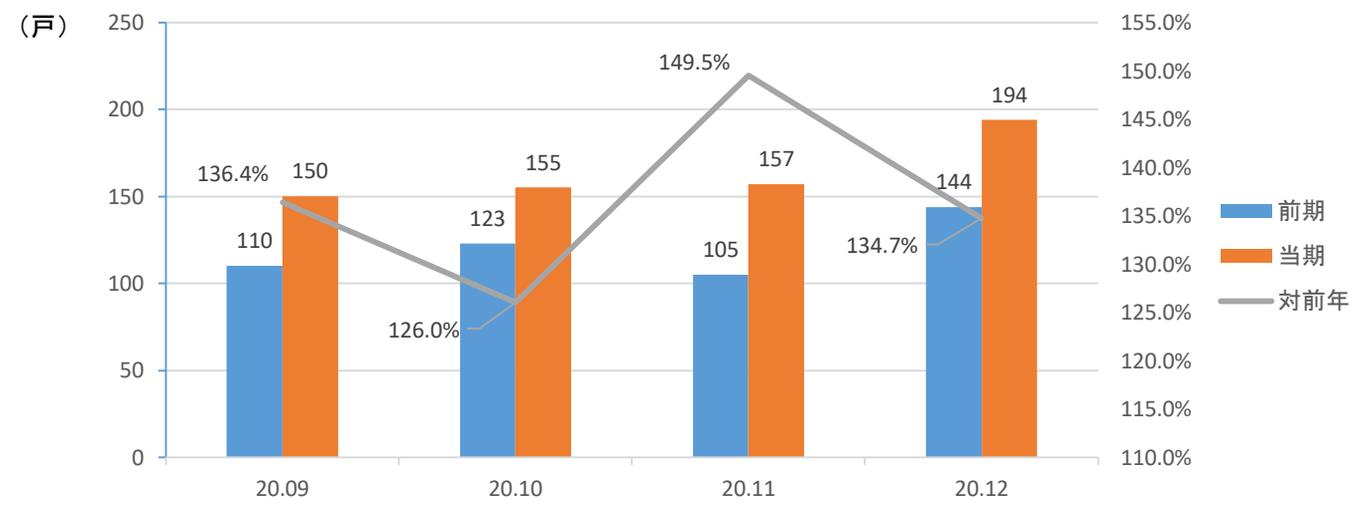
新車登録台数前年比



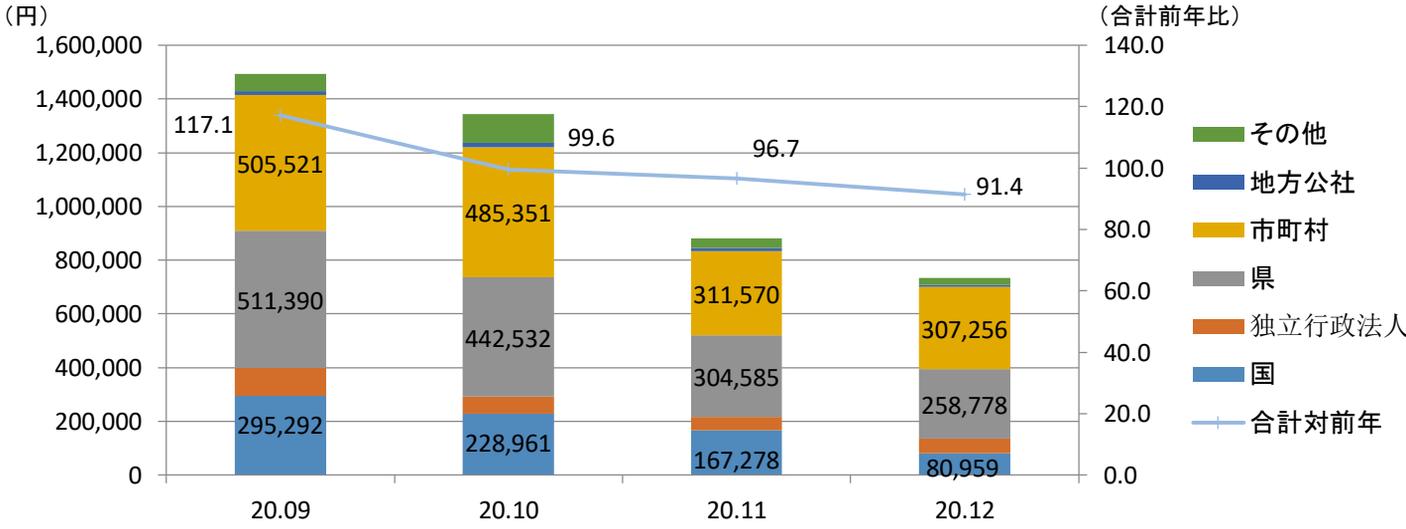
(資料)北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数の推移」

5. 建設投資

佐久地域月別着工戸数



公共工事保証請負額

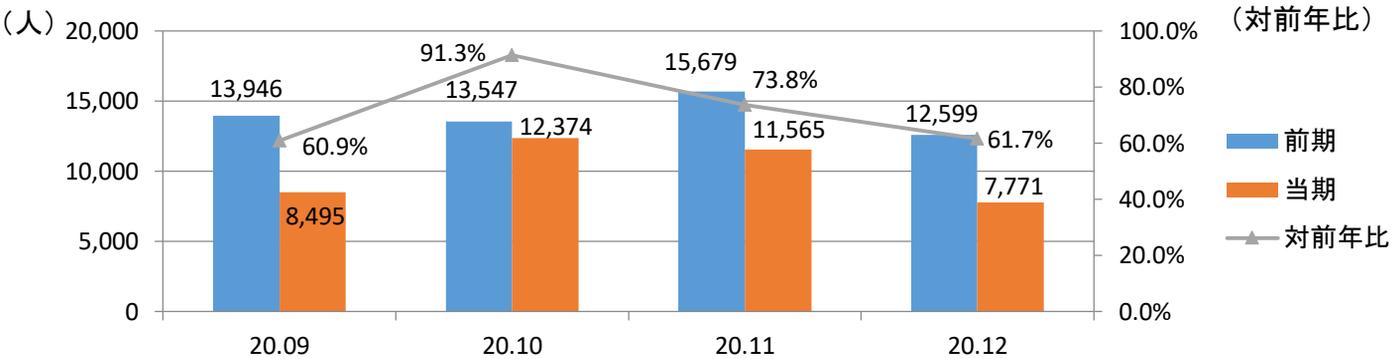


(資料)東日本建設業保証株式会社「工事場所別・発注者別保証実績表」

6. 県内交通

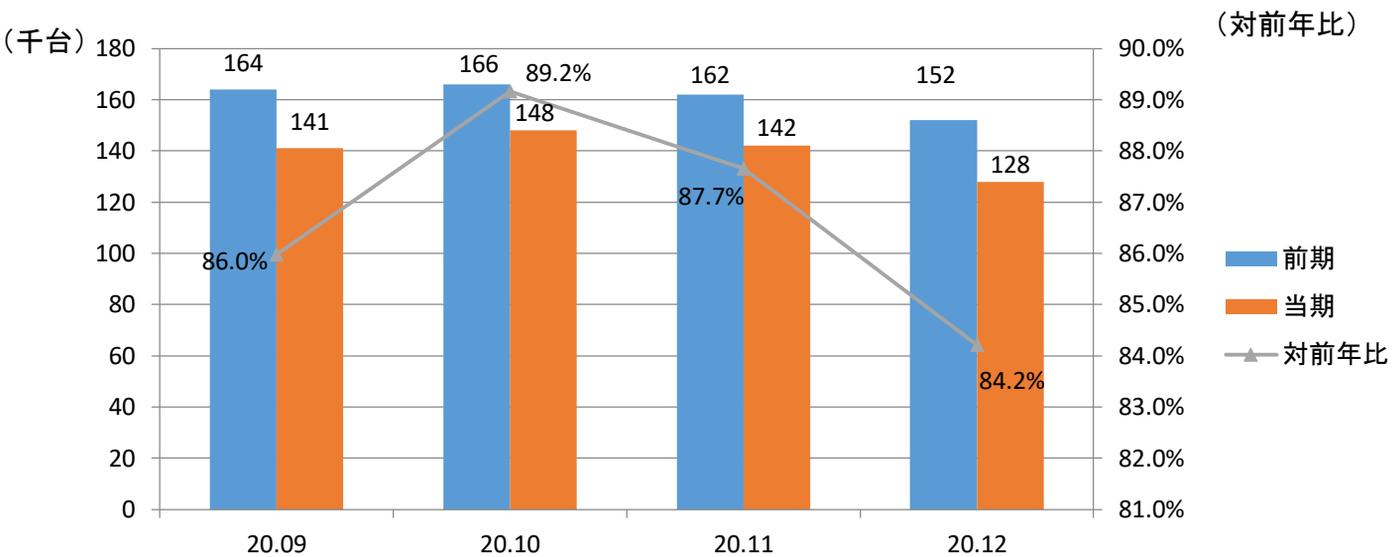
松本空港利用者数は、8千人を割った

松本空港利用者数



佐久インター出入り交通量は年末も前年比割れでコロナの影響を受けた

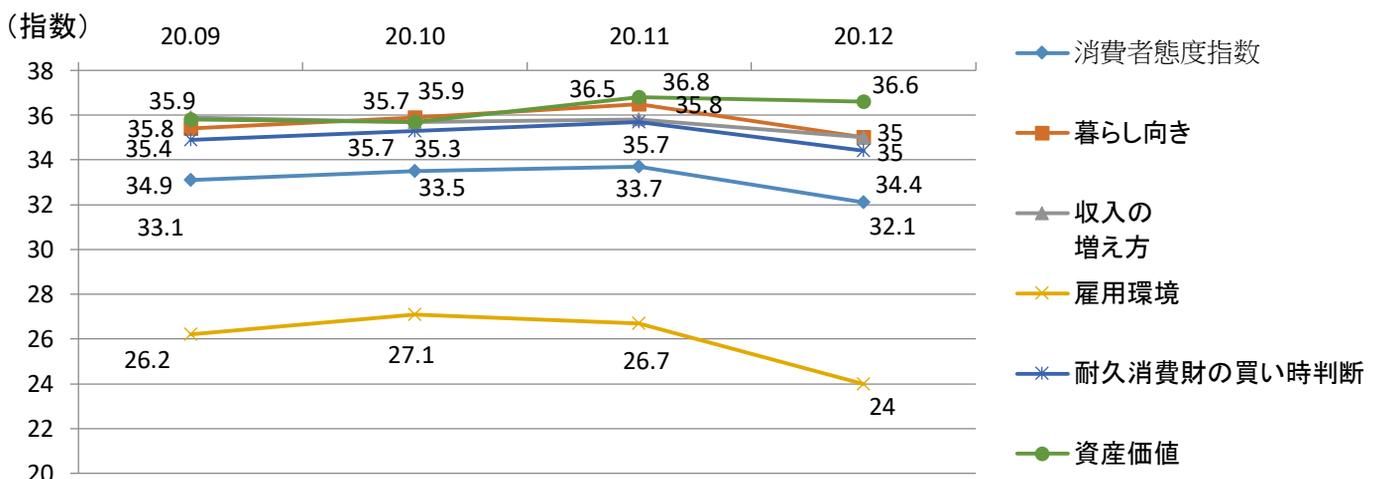
佐久インター出入り交通量



(資料)長野経済研究所「主要経済指標」

7. 内閣府の消費動向調査

※消費態度指数: 指数50が判断の分かれ目で、50を超えれば消費意欲が旺盛で、下回れば意欲が減退していることを表します。



(資料)内閣府「消費動向調査」

Ⅲ 新聞等の記事より

信越の7月宿泊者数、3月並みに回復 宿泊割り寄与

2020/10/1 日本経済新聞

観光庁が発表した7月の延べ宿泊者数は、新潟県が前年同月比43%減、長野県が同60%減だった。宿泊者数は3月並みに回復。徐々に人の移動が再開しているほか、政府の旅行需要喚起策「GoToトラベル」も寄与しているようだ。新潟の延べ宿泊者数は54万人泊、長野は67万人泊だった。両県ともに、5月を底に宿泊者数は徐々に回復傾向にある。一方、外国人の延べ宿泊者数は新潟が前年同月比96%減の1230人泊、長野が同98%減の1670人泊だった。

台風19号から1年 相次ぐ風水害「被害想像し備えを」

2020/10/11 日本経済新聞

東日本を中心に甚大な被害をもたらした2019年の台風19号の上陸から12日で1年となった。記録的な豪雨により各地で河川が氾濫し、100人以上が犠牲となったほか、経済にも大きな打撃を与えた。豪雨や台風による被害が繰り返される中、専門家は「暴風雨に襲われたらどう行動するかを常に想像しておくことが、危険の回避につながる」と指摘する。農林水産省の推計(20年4月10日現在)によると、台風19号とその後の大雨による農林水産分野の被害額は3446億円。うち、農地の損壊や農業施設への被害額が2100億円を占める。土砂の流入などにより修復が進まず、作付け自体が難しい地域もある。

長野県内10月の消費者態度指数、2期連続改善

2020/11/2 日本経済新聞

長野経済研究所(長野市)がまとめた10月の長野県消費者態度指数は、前回調査(7月)に比べて2.5ポイント高い34.1%だった。新型コロナウイルスの影響により、4月調査は大きく落ち込んだが、その後は2期連続で改善している。指標を構成する4要素全てが改善した。「雇用環境」は3.6ポイント上昇の28.1、「暮らし向き」は3.5ポイント上昇の37.9、「耐久財の買い時判断」は2.6ポイント上昇の35.3だった。「収入の増え方」も0.6ポイント上昇の35.4と、わずかながら前回は上回った。(今回の調査は10月1日時点で、1000世帯を対象にインターネットで質問した。)

長野の景気判断据え置き 生産に持ち直しの動き

2020/11/6 日本経済新聞

日銀松本支店は6日発表した11月の金融経済動向で、長野県の景気判断を「一部に持ち直しの動きがみられるものの、厳しい状況が続いている」として前月から据え置いた。自動車関連を中心に生産に持ち直しの動きがあるが、雇用・所得や個人消費などが弱めに推移している。生産を個別業種でみると、自動車関連は10月の「大幅に減少している」から「持ち直している」に判断を引き上げた。個人消費は弱めの動きが続くが、宿泊・飲食サービスなどはGoToキャンペーンなどの効果もあって一時よりは持ち直している。同支店の調べでは県内高速道路のインターチェンジの通行量も9月は前年同月比12%減と以前よりも減少幅が小さくなっている。

信越観光地、宿泊キャンセルも GoTo全国一時停止で

2020/12/15 日本経済新聞

政府の観光需要喚起策「GoToトラベル」が28日から全国一斉停止することを受け、信越の観光関係者からは戸惑いの声が上がっている。実際に宿泊をキャンセルする動きも出つつあり、持ち直しかけていた新潟・長野両県観光地にとって、「試練の冬」となりそうだ。「14日夜から、年末時期(12月26～30日)のキャンセルの電話が入り始めている」。瀬山直徳事務長はこう証言する。かき入れ時の一斉停止の影響は決して小さくないが「国がブレーキを踏む以上、地方が独断でアクセルを踏むわけにもいかない。まずは1月11日まで我慢して(年末年始に減った分の)揺り戻しに期待したい」と話す。

参考資料

- ・全国商工会連合会
 - 「中小企業景況調査報告書」
 - 「小規模企業景気動向調査」
- ・ハローワーク佐久
 - 「業務月報」
- ・長野経済研究所
 - 「長野県内大型小売店売上高の動向」
 - 「主要経済指標」
- ・北陸信越運輸局長野運輸支局
 - 「長野県における新車新規登録台数の推移」
- ・東日本建設業保証株式会社
 - 「工事場所別・発注者別保証実績表」
- ・内閣府
 - 「消費動向調査」
- ・経済産業省
 - 「鉱工業指数」
- ・長野県企画振興部情報政策課統計室
 - 「長野県鉱工業指数」
- ・日本経済新聞